

ニューリーダーネットワーク検討会議の取りまとめ

R元.11.22

1 本検討会議の設置趣旨

道内の各地域を輝かせ、より元気にするため、地域リーダーへの支援や業種・地域を越えたネットワークにより、課題解決に取り組む「北海道ニューリーダーネットワーク（仮称）」の構築について検討するために設置。

【知事公約】

官民が融合して、各地の若者による能力向上のための研修の企画・提案、合宿などを支援し、地域リーダーの育成を図るとともに、業種・地域を越えたネットワークの構築を図り、課題解決に取り組む、「北海道ニューリーダーネットワーク（仮称）」を創設します。

2 構成委員（座長以外、氏名五十音順）

所 属	役 職	氏 名
北海学園大学 経済学部 地域経済学科	教 授	西村 宣彦（座長）
（株）いただきますカンパニー	代表取締役	井田 芙美子
公益財団法人 はまなす財団	部 長	小倉 龍生
北海道商工会青年部連合会	会 長	中川 友規
東神楽町	町 長	山本 進

3 検討項目及び検討経過

- （1）参加対象者（条件・定員・選考方法）について
- （2）事業内容について
- （3）ネットワーク構築について

開 催 日	会 議 名	備 考
令和元年 8月30日	第1回 検討会議	
令和元年 9月30日	第2回 検討会議	
令和元年11月 1日	現地意見交換会	留萌管内遠別町で開催
令和元年11月22日	第3回 検討会議	最終開催予定

4 主な意見内容

別紙1のとおり

5 検討会議の意見を集約した事業の概要

別紙2のとおり

北海道ニューリーダーネットワーク検討会議の主な意見

1 参加対象者について（条件・定員・選考方法）

- 「地域リーダー」という名称は、「地域全体を代表する者」というイメージがあるので、「地域を少しでも良くするために取り組んでいる者（チャレンジャー）」という名称を使用した方が良いのではないかと。
- 対象年齢は今後の北海道を担っていくことを考えると原則50歳以下とした方が良い。
- ニューリーダーネットワークが動き出しても、各市町村が取組を理解し一緒に動いてくれないと連携がとれない。市町村が地域づくりに取り組んでいる方を発見・発掘することが大切である。
- 地域づくりは本業以外で行うものであり、本業として行っている者は対象外にすべきと考える。
- 北海道や地域を元気にすることが目的であれば、既存の団体（商工会、農協、漁協など）の横の繋がりをつくれば良い。その上で、個人の参加条件は、広域で取り組んでいるとか、行政がその活動に関わっている場合など、ある程度絞ってはどうか。
- 地域づくり活動を継続させていくために、活動が結果的に個人の営利に繋がる場合があっても良い。営利目的だけではないが、地域の人を巻き込んで活動していく人であれば、参加者として認めても構わない。そういう人や既存の団体（商工会、農協、漁協など）双方を巻き込めるような仕組みを構築すれば良い。
- 個人が営利目的で行っていても、地域がそれを必要としているのであれば、対象者として認めても構わないと考える。
- 社会的企業も課題解決に新しいアプローチで取り組んでいる或いは挑戦しているという意味では、地域リーダーと言える。
- 既存の団体に所属していない団体、個人も増えてきているので、それらの方も拾い上げることも必要である。

2 事業内容について

- スキルアップのための研修は、国、市町村や民間企業等で行われているので、必要ない。
- 30代、40代は仕事や子育て等で最も忙しい世代であり、研修や会議等で何度も集まることは困難なので、SNS等を活用した方が良い。ただし、面識のない者同士が最初からSNSを活用して繋がろうとしても議論がかみ合わないので、リアルとSNSをうまく組み合わせる必要がある。
- 対象者が参加したいと思える何か魅力的な取組も必要である。
 - ・ 大手の社長や知事等の講演会・交流会を行ってはどうか
 - ・ 知事と一緒に地域づくりについて考える場を設けてはどうか。
 - ・ 参加者が自分の取組やこれから取り組みたいことについてプレゼンするとともに、情報・意見交換をする場を設けてはどうか。
 - ・ 参加者でワークショップ等を行ってはどうか、何かを一緒につくり上げることで、相互理解が深まり、その後の関係が構築しやすくなる。
- 振興局単位の取組には、振興局長、各地域の大学の先生や市町村長を巻き込んだ方が良い。参加者は統一感がない集まりになるかもしれないが、お互いに磨きあったり、刺激し合えるような内容にした方が良い。
- 振興局単位の取組は、地域づくり活動の現地視察を加えるとか、毎年、開催地を変える等、開催方法を工夫する方法もある。

3. ネットワーク構築について

- 市町村単位、振興局単位、全道等、複数のレイヤー毎にネットワークを形成し、レイヤー毎の事業を構築してはどうか。
- ネットワークは各振興局単位で形成してもらった方が良い。
- 市町村内のネットワーク形成は、市町村が担うべきである。
- 他の地域の取組を知ることや他の地域で先進的な取組を行っている方との交流は、自らの地域が動き出す一因になる。
- 行政によるSNSを活用したネットワーク構築は必要ない。関係性ができれば、自然発生的に結びつくものであり、そうなるような組み立てをすることが大切。

検討会議の意見を集約した事業の概要

1 目的

道内各地で意欲的に地域づくりにチャレンジしている方々を支援し、そうした方々による業種や地域を越えた重層的なネットワークづくりのコーディネートを行うことにより、取組内容のレベルアップや新たな取組の展開につなげ、地域が抱える課題の解決や特性を生かした地域づくりを推進し、全道各地の地域力の底上げを図ることを目的とする。

2 取組内容

- ・ 市町村単位、振興局単位、全道域と重層的に取組を展開する。
市町村内のネットワーク形成支援は各市町村に担っていただき、道は、振興局単位及び全道域でのネットワーク形成を支援する取組を担う。
- ・ R2年度から、具体的に下記（１）、（２）、（３）の事業に取り組む方向。
※ 対象者が取組内容を発表し、参集者等と情報交換や意見交換する場を設けることがスキルアップにつながるため、当初予定していた人材育成のための座学を中心とした研修については実施しない。

（１）振興局管内地域づくり交流会

参加者	対象者	活動の大小に関わらず、意欲をもって自ら地域づくりにチャレンジしている概ね 40 歳代までの方
	定員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 管内市町村が各 1～2 名程度を推薦 ・ 該当者なしも可
	参集者	<ul style="list-style-type: none"> ・ （総合）振興局長、管内の市町村長 ・ 地域づくりに関心を持っている大学教授や学生 ・ 地域づくりに精通した有識者 など
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域づくりプレゼンテーション 対象者が自らの活動や今後挑戦したい地域づくり活動についてプレゼンを行い、同じ対象者や参集者から課題解決へのアドバイス等を受けるとともに、お互いの取組を知り、取組のレベルアップに寄与する連携・協力を繋げる。 ○ 交流会 参加者同士の触発と新たな取組に向けた機運醸成に繋げるとともに、振興局単位のネットワーク形成を促進する。 	

(2) 全道地域づくり交流会

参加者	対象者	地域づくり交流会（振興局単位）を経て、更に高次・広域的な助言を求める方、或いは全道的な横展開を目指す方など
	定員	<ul style="list-style-type: none"> ・全道で 30 名程度 ・振興局毎に、道、市町村のほか振興局管内地域づくり交流会の参加者が 1～3 名程度を推薦
	参集者	<ul style="list-style-type: none"> ・知事等の特別職 ・地域づくりに関心を持っている大学教授や学生 ・地域づくりに精通した有識者 ・道の包括連携協定締結企業や、北海道応援団会議メンバー、地域づくりに関心のある団体 など
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域づくりプレゼンテーション 対象者が自らの活動や今後挑戦したい地域づくり活動についてプレゼンを行い、同じ対象者や参集者等から課題解決へのアドバイス等を受けるとともに、お互いの取組を知り、取組のレベルアップに寄与する連携・協力を繋げる。 ○ 知事や地域づくりに関係する著名人等の講演会 ○ ブレストの実施 地域づくりに関連したお題について、複数人によるブレストを実施。 ○ 交流会 参加者同士の触発と新たな取組に向けた意識啓発に繋げるとともに、全道レベルでのネットワーク形成を促進する。 	

(3) 活動支援及び情報発信（振興局単位・全道ネットワーク共通）

各地域での取組を支援するため、アドバイザーの紹介等を行うとともに、全道各地の地域づくりを推進するため、地域づくり交流会及び全道地域づくり交流会の発表内容等をHP等により発信する。

(4) その他

将来のリーダー（中・高校生）を全道規模で継続的に育成することや、そのための指導者（社会教育士）を育成する必要があることから、教育庁において、検討されている「青少年フロンティアリーダー養成アカデミー（仮称）」事業と連携しながら取り組みを進める。

3 事業実施にあたっての名称

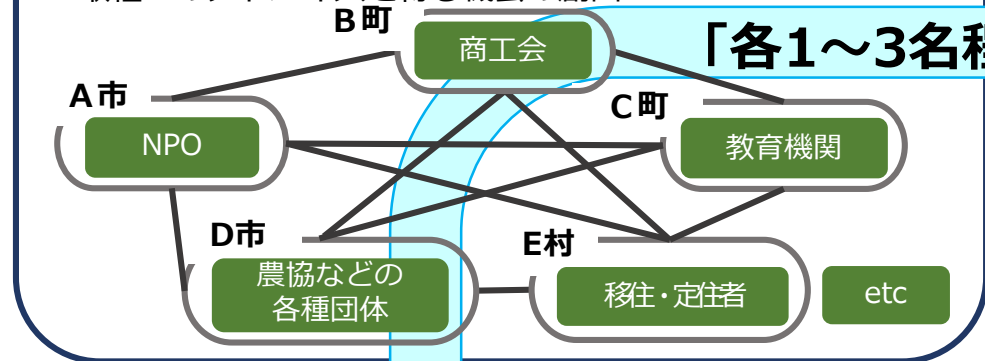
「リーダー」の概念は、多忙な世代の皆さんの重荷。地域で頑張っている方、様々な形で地域を盛り上げている方が集うイメージを打ち出すため、事業実施にあたっては、「地域づくりチャレンジャーネットワーク」（仮称）などとしていく。

地域づくりチャレンジャーによる新たなネットワークの構築

道内各地で意欲的に地域づくりにチャレンジしている方々を支援し、そうした方々による業種・地域を越えた重層的なネットワークづくりをコーディネートすることにより、地域が抱える課題の解決や特性を活かした地域づくりを推進する。

振興局単位のネットワーク

- ・地域づくりプレゼンテーションによる相互刺激
- ・管内市町村間の地域づくりチャレンジャーによる交流促進
- ・取組へのアドバイスを得る機会の創出



「各1~3名程度」

「各1~2名程度」

市 町 村

各市町村が地域内の地域づくりチャレンジャーを発見・発掘し、市町村ネットワークの交流を促進

全道ネットワーク

- ・北の未来づくりプレゼンテーションによる相互刺激
- ・全道市町村間の地域づくりチャレンジャーによる交流促進
- ・取組へのアドバイスを得る機会の創出
- ・地域づくりに関心のある方々への発信及び交流の場を創出



期待する効果

- 振興局管内及び全道での情報共有
 - ・先進的な取組の横展開
 - ・課題解決に向けたヒントの入手
- 重層ネットワークによる相乗効果

【公約】
官民が融合して、各地の若者による能力向上のための研修の企画・提案、合宿などを支援し、**地域リーダーの育成**を図るとともに、**業種・地域を越えたネットワークの構築**を図り、課題解決に取り組む、「北海道ニューリーダーネットワーク（仮称）」を創設します。

全道各地の
地域力の底上げ